

うちの  
みんなで  
読んでね

## 新春のお慶びをお申し上げます

あらたまの 年のはじめは 祝うとも  
南無阿弥陀仏の ころわするな (蓮如上人)

私達は新年を迎えると、「おめでとう」と祝詞を交わします。しかし苦悩の尽きることのないこの人生にあって、何が本当にめでたいことなのか、それを考えてみるのが大事であろうと思います。

本来「めでたい」という言葉は、物事が望ましい状態にある時に用いられます。喜んだり祝うに値すると思われる時に使用され、悲しみや苦しみを抱いていると人などには、この言葉を用いないのが普通です。

しかし、親鸞聖人は、お弟子の明法房(元山伏の弁円)が往生の本意を遂げたとの知らせを受けたご返事に、「めでたきことにて候へ」と書かれておられます。一般常識と異なって「往生こそめでたきこと」と語られたのです。つまり、何よりも南無阿弥陀仏に遇うことこそが、「めでたきこと」とされたのです。

したがって、お念仏を申すことについても、「ふかく信じてとなふるがめでたきことにて候ふなり」と述べられ、めでたい人生とは、お念仏を申し、浄土に往生する身になることであると明らかにされたのです。(出典 仏教家庭学校)



陸前高田の古刹・普門寺ご住職、熊谷さん。  
全国からの支援でさまざまな奉納がある。

謙虚と律儀さで慕われた大スター。晩年に友人に宛てた手紙の一節が紹介されていた。世の中は夢幻、自我の錯覚とも知りながらの人生訓。自分を深めるには己の教養や習慣を疑えとも言える。老境に入りながらも感性を退化させない。お手本となる品格、さもあらん。

(育ちのいい悪いというのは)自分が与えてもらったことに対して、素直に感謝できるかどうかがその決め手になる。音楽でも深く感動する。書物でも胸が高鳴る。理由は同じである。人生を発見して自分が深くなったような気がするからである。それは錯覚かもしれない。しかし自分を深めるのは、学歴でも地位でもない。どれだけ人生に感動したかである。

高倉健(俳優)

智慧の慈悲のはたらき

そのものが

仏しなのです

ますが、その時間も無限に長く、空間も廣大無辺です。

同様に仏さまの智慧、慈悲も人智では計り知ることができません。悟りを成就された「仏」のはたらきが智慧の光明となつて私を照らし、無限の慈悲がどこまでも私を包み込んでくださっている。その大きさに気づこうとせず、日暮らしをしているのが私たちの現実でしょう。

そんな私である事を見抜いて、仏さまは「南無阿弥陀仏」の名号となつて、いつでもどこでもどんな状態でも、「気づいてくれ、称えてくれ」と呼びかけてくださるのです。ただ、私たちは時間・空間の世界に生きているので、目に見える姿かたちによらなければ受け止められませんが。

そこで、方便の仏さま(方便法身の尊形)として木像や絵像(掛け軸)のかたちをとって仏壇などに安置され、礼拝の対象とします。それに親しみつつ仏法に触れ、本物の仏さまのはたらき、自分の中に巣くう闇を浄化してくださるはたらきへといざなわれることになるのです。

島根の妙好人・浅原才市さん(一八五〇〜一九三二)が「せいかいこく(虚空)が みなほとけ わしもそのなかなむあみだぶつ」とうたっています。仏さまの智慧と慈悲を全身で受け止め、いつでもどこでも、念仏の生活を喜びたいものです。(引用「心に響くことば」「月々のことば」)

◆人は一人では生きて行けません。誰かの支えがなければ倒れてしまいます。関係性ということでは「間」が大事にされます。面白い事に人間・時間・空間、いずれも間という時で表現されています。人は縁を結びながら生存しています。

## 教えて、お坊さん ① 「お仏壇はあるけどあまりお参りしていません..」

お仏壇には誤解もあるようです。ご先祖が安らぐためのものとか、何か願い事をする、祈りを捧げる場所..。しかし、真宗に限っては念仏を申す場所であり、ご本尊である阿彌陀仏の智慧と慈悲のはたらきに出会い、わが身の罪深さを恥じ、救われゆく喜びのための場です。亡くなった人の居場所でも、僧侶だけが勤める対象でもありません。

勿論、身近な家族の死にふれて、生死の厳しさや亡き人のことを偲んでお参りするのは当然です。むしろ、死を悼み、故人を思慕する思いは何年も抱えていくこともあるでしょう。あるいは、死にたくなる程の絶望や行き詰まりに沈み込んだら、それこそ神仏にでもすがりたくなります。

また、日々追われていたり順風満帆な人生であれば、仏法自体に縁がなかったり、お寺さんとおつきあい上、何となく惰性的にお参りしている場合もありますね。いわゆる「ほっとけさま」、まるで「家具」の一種かもしれません。

ただ、真ん中に安置されているのは、あなたを救うはたらきです。亡くなった大事な人が救われている(浄土往生)と領解するうえには、あなたも今その人生で救われる道を歩まねばならないでしょう。どんな人生を送るか分からない、いつ打ちのめされるか分からない、この世で何も当てに出来ないと分かった時、それでも行き先を示してくれる拠り所、感謝を表す場所をもっては如何ですか? 仏間でなくても、お部屋のどこかに聖なる装置、手を合わすだけの小さな仏さまでもオッケーですよ。(参考「高校生からの仏教入門」ほか)

## 「福島&陸前高田～11月末、実質一泊二日の強行軍」・・・・・・・・・・・・・・・・

◆約半年ぶりの福島市、駅前周辺の線量は福井の約3-5倍程度。本願寺派福島支援事務所で相馬組報恩講が営まれた。放射能汚染により、ご自坊で報恩講が務められない住職方やご門徒も多い。

前回お話伺った浪江町常福寺さん、組長の南相馬市勝縁寺さんをはじめ、飯館村善仁寺さん、昨秋の台風で全焼した南相馬市光慶寺さん、双葉町の光善寺さんなど十カ寺お揃いの装束。狭いふた間に約40名ほどものご参拝。TERRAねっと福井で作成した散華メッセージをお渡した。寺も墓地も奪われた住職方の苦労は並大抵ではない。同じ寺の立場として、終わりが見えないその心労は察するに余りある。



◆続いて一年三ヶ月ぶりの陸前高田入り。山間部はだいぶ山肌が削られ、道路や仮設店舗があちこち作られ、巨大なコンベヤー群で「奇跡の一本松」が向こうにかすむ。荒野のようだった旧市街地は、急ピッチでかさ上げが進んで、すでに10mほどの土で覆われてしまった。

宿は、毎度お世話になっている普門寺さん。ご夫妻とも快活でお話が楽しく、ついつい長居してしまう。ここには、東大寺や善光寺、京都西陣や金澤翔子さん、著名な版画家や五百羅漢PJなど、震災以来全国からさまざまな支援が集まってきている。奉納された仏像もすごく、一般の方が作った千体仏や二百体仏をはじめ、最近では阿弥陀如来像と十九体仏も届けられ、「浄土・曹洞宗だ」と住職は笑う。

それらのある部屋は「まるで聖地ですね」と言うと、「そうになってもらいたい」と返された。奉納された仏像をカウントすると約1300にもなり、昨年からの市民の手で200体ほど作られた境内の五百羅漢像がいずれ完成すれば1800体になる。これは陸前高田市の犠牲者と同じ数。偶然か必然か..。



◆市内西風道仮設団地に一人暮らしの岩崎たみよさん。昨年夏、たまたま出会って以来の訪問。変わらずお元気で明るく、とても84才とは思えない。どうしたらこんなに頭の回転と豊かな感受性を保ってられるのか。

終戦後15才、96才の祖母を自宅で看取った。そのときは、数人で寝返りを補助したら「あ〜〜いいね〜」



とひとこと言って（気分よくなって）、そのままずっと眠ったように亡くなったという。そんな死にはそれ以降見たこともないし、自分もそのように往生したいと笑った。狭い仮設暮らし、物が置けない（買えない）のが悩ましいと言う。

同市広田町・本願寺派支援拠点「とまり木」で、地元の傾聴ボランティアリーダー格の西條さんと会う。自宅は一階が水没した。被災者一人ずつ抱える状況は違う。かえってしがらみのない第三者の方が話をしてくれやすい面もある。仮設ではすごく細やかなコミュニケーションが培われていると、復興住宅へ単独で移っても寂しいという状況や、仮設のストレスで酒浸りの单身男性もいる云々。

目立った産業もなく、一度離れた若者は都市生活に慣れてしまう。課題が山積みである。



## 「ささやかな喜び」

◆「11月11日」が「介護の日」というのはご存知でしょうか。それに合わせて県内の介護福祉会で「介護川柳」が募集され、日頃俳句や短歌を作った事のない私が、賞金2万円につられ応募をしてみました。

12月中旬、忘れた頃に大型封筒が届き、中を見ると県内外から沢山の応募があったことのお礼状と、応募者全員の句を載せた句集が入っていました。

『ありがとの 寝ててもつぶやく おむつ替え』 賞には入りませんでした。初めて応募した一句が句集になる。ささやかなことですがとてもうれしく思いました。

ちなみに大賞は『宝くじ 当たっているのは 紙おむつ』でした。来年もささやかな喜びを感じられる年にしたいと思っています。(C)



▼昨年十月二十五日「お寺でまったりカフェ」、知人や同行の方六名が来寺されました。短い勤行とお話の後、めいめいに写仏や写経、マンダラ塗り絵にチャレンジ。総代さんが淹れていたいただいたコーヒー片手に、ゆったりした時間を楽しんでいただきました。次回は春頃の予定。どなたでも是非お待ちしております！(S)

本年も宜しくお願い致します。

今年  
行事  
予定

- ・お年頭：1月2日（金）終日
- ・永代経：3月21日（祝土）昼3時
- ・七日盆：8月7日（金）終日
- ・盆会：8月15日（土）終日
- ・報恩講：9月23日（祝水）昼3時、夜7時

・ご本山ご正忌報恩講：1月9日（金）～16日（金） \*様々な催しもあり

どうぞ  
お参り  
ください